

平成24年度 ミツバツツジの里づくり事業報告

平成25年3月21日

1. 育苗方法に伴う勉強会の実施

ミツバツツジは、ツツジ科の中でも挿し木や接ぎ木が困難で、地質や気候等の環境に合わないとは枯死してしまうほどであり、生育も非常に遅いため一般的な花木と比べると育てにくいとされている。

猪之頭地区は昔から里山に自生種として咲き乱れ、季節の指標花として大きな役割を担っており、「イモウエツツジ」とも呼ばれてきた。

また、東海自然歩道の脇などにオレンジ色の大きめの花を付けた「レンゲツツジ」が30年前には見られ、至る所に自生していた。

地域固有のこれらのツツジは、山野草ブームの影響や農業の機械化に伴う農地整備等により、集落内の一部にしか残っていないのが現状であり、レンゲツツジにあってはここ数十年見ることもなく、絶滅種そのものとなっている。

このような現状の中で、ふる里の景観を再現し、保全していきたいという声と共にこの事業がスタートした。

そのため以前、富士市大淵で実施されたミツバツツジの植栽活動を参考にすべく大淵の神尾農園を訪れ、種の採取から植え付け、育苗方法を学び、長期計画のもとに事業展開を図ることにした。



写 2 トレーによる育苗状況(1年目)

今回の計画の一つでもある種からの育苗を具現化する方法として、以下のとおり実施する。

- ・採取した種をふるい分けし、良い種のみを選別し、用意する。
- ・トレー内の用土はパーライトとピートモスを最適な比率で混ぜ合わせ、十分水に浸して使用する。



写 1 種の選別指導(神尾農園にて)

花の種は地区内にある古木から11月～12月頃に採取し、選別のうえ冷蔵庫に保存した後、播種することにした。

- ・ 十分水に浸したのち、選別した種を用土上に粗く播く。
- ・ 播種後、用土の乾燥を防ぐため新聞紙を被せ、発芽するまでハウス内で育てる。
- ・ 発芽後、用土の乾燥に十分注意しながら水やりを行い、1年間育苗する。
- ・ 1年目の苗はトレーから間引きしながら育苗し、2年目の10cm程に育った苗を畑に移植する。
- ・ 畑にて苗木高さ1m前後になるまで育てた後、根回して植栽する。

2. ミツバツツジ植栽(里の景観づくり)の実施

ミツバツツジの植栽による里の景観づくりは、NPO 法人あさぎり古里創生ネットの設立と共に地域振興に関わる重点事業の一つとして展開することとなった。

この事業の実施に際して、富士宮市の緑化事業の一環として「緑の補助金」といった助成金が交付されているため、この助成金を活用し実施に至った。

また、当法人が推進している「ミツバツツジの里づくり」活動は、基本的に3年計画として、猪之頭地区内の道路を対象とした線的要素、景勝地・公園・寺社仏閣等を対象とした面的要素、各住宅や駐車場等を対象とした点的要素に分け、地域の景観と自然環境を創生・保全していくことを目指している。



写 3 県道414号線植栽予定地(上村)

その初年度として、猪之頭地区内を南北に走る県道414号線(線的要素)を対象として、その両脇に苗木を120本程植栽する計画を実施した。

実施にあたり表 1 が示すように、猪之頭地区を大橋地区、中村地区、上村地区に3区分し、各地区の414号線両脇の民有地を事前調査のうえ、各地権者に承諾をいただくと共に、植栽当日の参加協力をお願いするといった区民参画方式で実施した。

また、当地区の小学校と中学校が組織活動している「緑の少年団」との協力のもと実施できたことは大きな成果であった。

各地域の実施状況としては、表 - 1 のとおり概ね平均的な協力が得られ、計画当初の目標であった120本の植栽が達成できた。

表 1 各地区別に見た植栽状況(414号線沿い)

| 地区名 | 大橋地区 | 中村地区 | 上村地区 | 計 |
|------|------|------|------|------|
| 参加戸数 | 18戸 | 16戸 | 17戸 | 51戸 |
| 植栽本数 | 43本 | 37本 | 40本 | 120本 |

各地区における植栽状況を写真 - 1 ~ 写真 - 9 に示す。

【大橋地区】



写真 - 1 県農業試験場北側



写真 - 2 猪之頭下バス停南側



写真 - 3 大橋バス停西側

【中村地区】



写真 - 4 消防 21 分団南側



写真 - 5 井之頭小学校正門前



写真 - 6 猪之頭郵便局南側

【上村地区】



写真 - 7 NTT 電話交換所西側



写真 - 8 県指定ミツバツツジ 東側



写真 - 9 井の頭中学校正門前

3. 朝霧地域の固有種の保存と創生

当地域の固有種であるミツバツツジが咲き乱れる里づくりの創生及び種の保存と育成を図るため、地区内にあるミツバツツジの古木(県指定)から種を採取し、その子孫を残していくことにした。

その計画を進めるため、11月に採取した種を選別・冷蔵保存し、3月中旬に育苗用トレーに種蒔きを行った。

育苗用トレーは4箱を使用し、パーライトとピートモスを最適な比率で配合したものを敷き締め、十分に水を浸したのち種を播き、4箇所分配到個別で1年間育てることとした。これらの発芽は4月中旬以降になる予定である。

また、発芽したこれらの苗が数年かけ1 m程に育ち、当地区のふるさとの景観づくりに一役担ってくれるものと期待している。

今後の展開として、当初の3年計画から5年計画へと変更していくべく検討が必要である。